

2020 年度草木染塾 第 3 回

9 月 30 日に草木染塾が開催されましたので報告します。

【タイトル】2020 年度第 3 回草木染塾

【開催日】2020 年 9 月 30 日（水）

【場所】川崎市黒川青少年野外活動センター

【実施概要】座学では板締め絞りの説明があり、実習では玉ねぎ外皮、キバナコスモス、コナラどんぐりを煮出して木綿のバンダナ（板締め絞り）、レーヨンのストール、丹後ちりめんのマフラーをアルミ媒染と鉄媒染で染めた。

【スタッフ】講師：奥村具子、矢吹佳枝

【受講者】林公康、横井行男、古谷一祐

【報告者】古谷一祐

【本文】

夏休みを挟んで久々の草木染塾の開催でした。秋の気配が漂い、周囲の草木は前回（7 月）とは全く違った様相になっていました。当たり前ですが、あらためて草木染は自然の移り変わりを意識して材料探しをしないと染められないことがわかりました。

午前中は、今日の材料の玉ねぎの皮、キバナコスモスの花びら、コナラどんぐりをズン胴の鍋で煮出しました。沸騰したら色の濃度をみながら「濃いねー」などと思わず期待の声が出てきます。玉ねぎの皮は量が多めだったので充分過ぎるほど濃い色が出ました。弱火で 20 分煮出している間はワクワクします。アルミ媒染液と鉄媒染液を作り、色見本の布を染めてお昼になりました。

午後はいよいよ布染めです。まずは玉ねぎの皮で綿のバンダナを板締め絞りで染めます。バンダナを三角形や四角形に折り畳み、いろいろな形の木片で挟んでゴムで縛り、染色液につけて液が行き渡るように布を揉みます。水洗いしてアルミ媒染液に浸けると、黄色のバンダナに染まり、映画「幸せの黄色いハンカチ」を思い出しました。さらに板絞めの板をずらしたり外したりして、鉄媒染液に浸けます。すると黄色がカーキ色？に変色します。一瞬鮮やかな黄色が別の色に変わるのが惜しくなりました。水洗いして広げると、自分では予想しなかったおしゃれなバンダナになっていました。黄色とカーキ色と白の模様が渋くていい。

次は、キバナコスモスの花の染色液にレーヨンのストールを浸けてアルミ媒染します。これがまた鮮やかなオレンジ色になったのでびっくりしました。草木でこんな鮮やかなオレンジ色に染まるとは思いませんでした。最後は、コナラどんぐりの染色液に「丹後ちりめん」のマフラーの端を半分に折って 3 分の 2 ほど浸してから水洗いして、鉄媒染液に 3 分の 1 ほど浸すと、水墨画のように濃い紫グレー色から淡いグレー色にグラデーション状に染まりました。もしかして、このマフラーを首から下げれば、映画「カサブランカ」の主人公が気取れるかもしれないと思いました。

午後は晴れ間も出ました。鍋やザルを手早く片付け終わってから、皆んなで黒川駅から帰りました。



ミョウバンは何グラム？



玉ねぎ皮の染液を濾す



これが板染めです



どんな色に染まるかな？



作品の前ではいポーズ_